

●日ごろの練習の成果を思い切り出しました
家族の皆さんも白熱した応援を



上の写真は富士見小学校、
左は狭山台南小学校

9月15・22日、市内の小学校で運動会が行われました。22日は9月下旬とは思えない真夏のような太陽の照りつける中、子ども達が各種目に熱戦を繰り広げました。また、各会場には多数の家族の皆さんが訪れ、カメラやビデオを持ちながら大きな声で応援していました。

ひとまち写真館
human Town Photo studio

あなたが写っていませんか？広報さやまに掲載した写真は、広報課で撮影したものに限り無料で差し上げます。広報課までご連絡ください。

●交通事故ゼロに向けて発進！

9月21日、黒須検問所で、秋の交通安全運動出陣式が開催されました。出陣式の後、当日参加した約135名の皆さんは、高齢者の事故防止などの重点目標を訴え、通行車両にチラシや啓発品を配布し、交通事故防止の広報活動を行いました。



狭山台地区をあげて敬老を祝いました

狭山台地区には約900名の高齢者の方がお住まいです。私たちの自治会では、高齢者の皆さんが明るく健康な生活を営める環境づくりを目指しています。
毎年行われる敬老会は、高齢者の方に楽しいひとときを過ごしていただくことを目的に開催されます。今年は9月15日に行われ、75歳以上の皆さんを招待しました。当日は、子ども会の踊り、マジックショーなどがあり、イベントが盛りだくさんで、皆さんに楽しんでいただきました。

うぐわき自治会 狭山台二丁目自治会

公式モバイルサイトで市内の史跡を巡るコースを多数紹介しています。ぜひご覧ください。

狭山の史跡
笹井豊年足踊り

所在地 笹井 1962



当地の桜井藤太郎が創作したもので、市の無形文化財に指定されています。この踊りは演者が仰向けになり両足を高くあげ、左足にヒョットコ（ヒョットコ）の面と男物の衣装を着け、右足にオカメの面と女物の衣装を着け、さまざまなきぐさを演じ、扇や傘を操ります。

笹井白鬚神
社で4月と10月の祭礼に奉納される笹井豊年足踊りは、幕末から明治初期にかけて



●人間野中学校
女子バスケットボール部

私たち女子バスケットボール部は、9名の部員が毎日練習に励んでいます。現在、県大会を目指して基礎的練習と実践練習を行っています。私たちが一番大切にしていることはチームワークで、みんな明るく、楽しく、元気良さをモットーに練習しています。みんな団結してチャレンジすれば、どんな強い相手でも勝てる自信がわいてきます。

●ちびっ子達も参加

救命手当は正しい理解と実行力で



9月9日、カルフル正広場で消防本部主催の救命フェアが開催されました。参加した人は「救命手当の重要性を、子ども達にも分かりやすく説明してもらい、大変役に立ちました」と好評でした。

●こんなに近くでおサルさんが見られます

8月29日から、こども動物園ではニホンザルを約30cmの近くで見ることができるようになりました。訪れた皆さんは「サル表情がよくわかります」と評判になっています。



●お母さんも試してみました

赤ちゃんのツボマッサージ



9月13日、奥富公民館の子育て広場で、赤ちゃんのツボマッサージの講義がありました。お母さん達は、「家に帰って早速試してみたい」と話していました。

●体力年齢は今何歳？

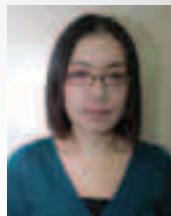
自分の体力を知って健康づくり



9月8日、市民総合体育館で体力テスト会が行われ、握力測定、反復横とびなどに挑戦しました。46名の参加者は、テスト終了後に総合評価と体力年齢を教してもらい、今後の体力づくり・健康づくりに活かしました。

英語活動支援員
エイゴカツウシエンイン

鈴木加代さん
(奥富小学校勤務)



支援員として勤務は4年目
趣味は愛犬
好きな言葉は“Sayaman”

Berkeley, one of the diverse cities of California, is where I spent 4 years of my life with, in total, 19 roommates from 13 different countries who spoke 9 separate mother tongues. Even at home, life was like a small melting pot, but it was filled with too many differences among us. I had to adjust myself to our way of living together.

One day in class, the teacher said he preferred “a salad bowl” to “a melting pot” which seemed unfit for the times for its definition. His interpretation represented an ideal of today's living place, it is as if you could enjoy each taste of vegetables in your mouth, but any lack of them didn't make a harmony. I remember the word as a tip to get me easier and to keep going on with things.

私は、4年間カリフォルニア州パークレーで、9か国語を話す、13か国・19人の学生と暮らしました。小さな多民族・人種のるつぼのようでしたが、現実はその中に溶け込んでいかなければならないのに互いの違いだらけでした。

ある授業で先生が、「今の時代には合わない『るつぼ』という単語より、現代社会の定義には、むしろ理想の共存社会を例えた『サラダボウル』のほうがいい、なぜならそこには個々の野菜の味わいがありながら、どの野菜が欠けてもその調和のとれたおいしさはない」と言いました。その言葉がきっかけで気持ちが楽になったのを覚えています。(英文の要約)